

防災は、「もしも」から「いつも」へ。

## 暮らしの変化が変えた、新しい防災の考え方 — データとSNSの声から見た、“これからの防災” —

東日本大震災から15年。

防災への関心は高まる一方で、災害への不安もまた、多くの人の中で消えてはいません。

共働き世帯の増加や家族が離れて暮らす生活など、私たちの暮らしは大きく変化しました。こうした社会の変化により、防災は「どれだけ備えるか」だけではなく、**日常の中で異変に気づける仕組みをどうつくるか**という視点が重要になっています。

——今回は、**震災から15年を迎えた今**、データや生活環境の変化、SNS上の声をもとに、これからの防災のあり方を考えます。

### 不安は広がる一方、防災対策は4割未満「意識と行動のギャップ」

災害への不安は、多くの人々が日常的に感じているものです。

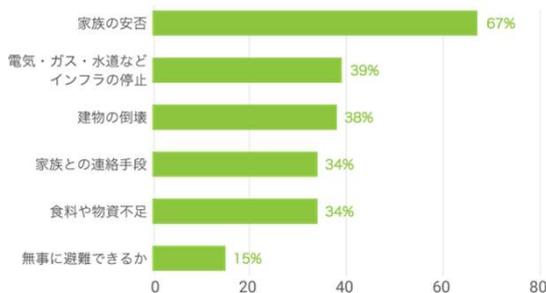
「災害時、人は何に不安を感じているのか」という調査では、停電や通信障害、家族との連絡が取れないことなど、**日常生活が突然止まることへの不安**が上位に挙がっています。一方で、「これまでに行ったことがある防災対策」を見ると、具体的な備えを実践している人の割合は**4割に満たない**という結果も出ています。

これだけ多くの人々が不安を感じているにもかかわらず、防災対策の実践は十分に進んでいない——。この「**意識と行動のギャップ**」は、いまの防災を考える上で重要なポイントです。

では、なぜこのギャップが生まれているのでしょうか。

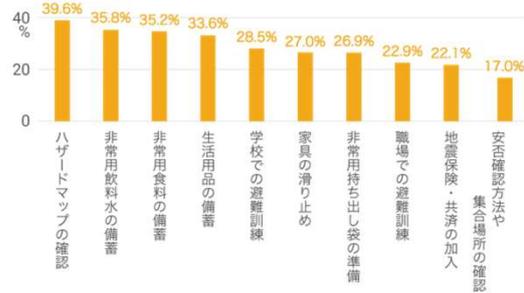
背景には、私たちの生活環境の変化が関係している可能性があります。

災害時、人は何に不安を感じているのか？



パナソニック(株)「防犯意識調査」をもとに作成

これまでに行ったことがある防災対策



JA共済「防災に関する意識と実態調査」をもとに作成

### 防災を変えたのは、災害ではなく「暮らしの変化」

共働き世帯の増加、単身世帯の拡大、離れて暮らす家族、そして、24時間インフラに依存する都市生活。こうした環境では、「家に備える」だけでは不十分です。防災は、日常生活の延長線上で考える必要があります。



その変化は、SNS上の個人の声にもはっきりと表れています。

## SNS投稿から見えてきた 現代の防災不安

SNSには、日常の中にあるリアルな防災不安が数多く投稿されています。  
投稿内容は、大きく次の4つのテーマに分けられます。

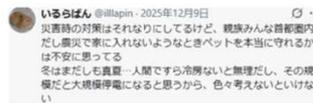
## 01 | 見えない場所の安全

離れて暮らす家族の状況がわからないことは、現代の防災における最も大きな心理的不安のひとつです。高齢者の避難や停電時の安全確保は、多くの家庭に共通する課題になっています。



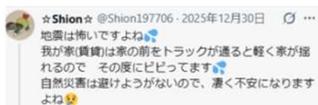
## 02 | インフラ停止後の生活

停電や極端な気温変化は、人間だけでなくペットの命のリスクに直結します。インフラ停止後の生活維持は、現実的な備えとして強く意識され始めています。



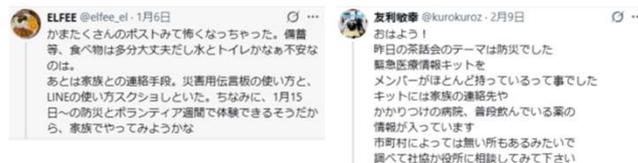
## 03 | コントロールできない恐怖

建物や住環境に対する不安は、日常の安心感そのものを揺さぶります。「避けられない災害」への恐怖は、多くの人が共有する感情です。



## 04 | 実践的な備え

備蓄や連絡手段、医療情報の共有など、具体的な備えを始めている人も確実に増えています。防災は「知識」から「実践」へと移りつつあります。



不安のかたちは違っても、その根底にあるのは「日常が突然失われることへの現実的な恐れ」です。そして多くの人が、完全な備えではなくても、できることから始めようとしていることが見えてきます。

## 完璧じゃなくていい。多くの人が始めている「最低限の防災」

専門家でなくても、防災は「できるところから」で十分です。SNS上では、実践している人たちから“最低限の備え”として、次のようなポイントが挙げられていました。

- ✓ 飲み水 (1人1日3ℓ × 3日分が目安)
- ✓ 懐中電灯 or スマホライト
- ✓ モバイルバッテリー
- ✓ 常備薬、メガネなど自分に必要な物
- ✓ 家族と集合場所の確認

重要なのは、完璧を目指すことではなく、日常の中に少しずつ防災を取り入れていくことです。こうした視点は、個人の課題であると同時に、社会全体の設計思想にも関わるテーマです。

## 非常時の対策から日常に安心を組み込む防災へ

Secualでは、防災や防犯を「非常時だけの対策」としてではなく、日常生活を支えるインフラの一部として捉えています。

例えば、センサーや通信技術を活用し、離れて暮らす家族の見守りや、住環境の異変に気づく仕組みなど、日常の中で安心を支えるテクノロジーの開発・提供を進めています。

災害や事故そのものを完全に防ぐことは難しくても、暮らしの中で安心に気づける環境をつくることはできます。私たちはその視点から、日常と防災をつなぐ仕組みづくりに取り組んでいます。

――Secualはこれからも、テクノロジーと生活の接点から、日常の安心を支える仕組みづくりに取り組んでまいります。